

I Serve の究極にあるもの 職業奉仕

第 2630 地区バスターガバナー 服部 芳樹 (岐阜 RC)

初めに

「ロータリーは、単なるボランティア団体ではない。寄付団体でもない。慈善団体でもなければ、社交団体でもない。ロータリーには、職業奉仕という看板がある。職業奉仕はロータリーがロータリーである所以の奉仕であり、他の奉仕団体との違いはここにある」

……と言われて、それならば職業奉仕とは？ と尋ねられると「さて？」となってしまうのが現実ではないでしょうか。また、日本の職業奉仕論と、現在の国際ロータリー (RI) の提示する「職業奉仕」とは遊離しているかのようになっています。現在の若い新会員にも理解され、RI の提示するところとの整合性は得られないのでしょうか。

[I] 四つの登山道

では職業奉仕がなぜ、そんなに「鶴のように、えたいの知れぬわからないもの」になってしまったのでしょうか。現在職業奉仕を解く論説を大きく分類すると、四種に分けることができます。しかもそれは、一つの山に四つの登山道があって、「登りつめた頂上は同じ」ならよいのですが、それぞれ異なる四つの峰の頂に達してしまうので、どの途をたどるかが混乱の元となっているようです。もっとも頂の高さは同じで、どの途を選ぶかは各々の信じるところでしょう。

四つの登山道は、次のように考えられます。

- 1 道徳律、悟りの境地を求めて。
- 2 職業宣言、倫理運動として。
- 3 東洋思想に演繹して。
- 4 シェルドンの職業繁栄理論を基礎に。

1 神聖化された悟りの境地

「職業奉仕は難しい、語るも行うも難しい」。1970 年代のことです。私が入会したころ先輩が言いました。そして聴かされたのは高邁にして迂遠なる理論。滔々と語られる天上の哲学……。原典は、1915 年サンフランシスコ国際大会で採択された「全分野の職業人を対象とするロータリーの倫理訓」と称する 11 か条の道徳律でした。

その要旨に、この倫理訓の目的として曰く、「この倫理訓は、愛を述べたものである。他人を滅ぼすよりはむ

しろ、他人に滅ぼされんことを選ぶ。この倫理訓は、愛に基づいて作られている……」。また当時強調された言葉に、「職業奉仕とは神に物を売ることなり」がありました。神の御心に適うように励めという「天職論」も、盛んに講話の中に出てきた言葉でした。確かに職業奉仕の原語は、『手続要覧』に Vocational Service と書かれています。このような思想に鍛えられたリーダーから聞く「職業奉仕論」は、どれも立派すぎて、職業奉仕の講話を聴いていると、悟りを啓くために座禅を組んでいるような心境になり、職業奉仕月間の例会には、食事に「霞」がでるのではないかと思っただけでした。

2 職業宣言を柱に解説

「職業奉仕・四つの反省」前原勝樹バスターガバナー (PG) 1972 年、「職業奉仕に関する声明」1987 年 (2014 年の国際ロータリー理事会で改定。『ロータリー章典』8.030.1、改定後の公式の日本語訳はありません)、「ロータリアンの職業宣言」1989 年 (2011 年の国際ロータリー理事会で「ロータリーの行動規範」に変更。2014 年の同理事会で改定。日本語訳は横組み P11)、これらが中心になった論説があります。高い倫理基準が求められ、世に有益な職業に貴賤なきことの認識を持ち、自己の職業を高潔なものとする。顧客・従業員・同業者・納入業者に等しく公正に……などが述べられています。

ロータリーは倫理運動であり、そのなかで「愛情の世界に生きる心をもって職業を営むべし」。この言葉に象徴される、深川純一 PG の立派な論説は著名です。

職業奉仕の戒律ではさらに厳しく、「ロータリアン同士は職業上の関係で、便宜や特典を図ってはならない」と書かれていたり、先輩から「ロータリーの席で商売の話は禁句と心得よ」と説き聞かされるにおよび、ロータリアンは最も親密な友人、ではなかったのでしょうか。大切な友としての処遇は、許されないのでしょうか。職業上の互恵組織から出発したロータリーなのに、なぜ商売に触れてはいけないのでしょうか。異業種交流や、共存共栄切磋琢磨など、ロータリーには相反する思想なのでしょう。職業と無関係の会合であるべきなら、毎週昼飯のために「仕事を休んで出かける」理由を、従業員にどうやって納得させるのでしょうか。例会は、後ろめたい気持ちで出かけるものなのでしょうか。

……ということが釈然とせず、不思議でした。

3 東洋思想に演繹して

東洋思想の「善因善果悪因悪果」論、二宮尊徳の「報徳教」、伝教大師最澄「道心の中に衣食あり」、近江商人の「三方良し」……など、職業奉仕と同じ理念と説かれています (安平和彦 PG)。日本人には大変わかりやすい説明です。天職論などは真逆の因果応報の思想が、何の抵抗もなく職業奉仕理念のなかで融合してしまうのは不思議です。

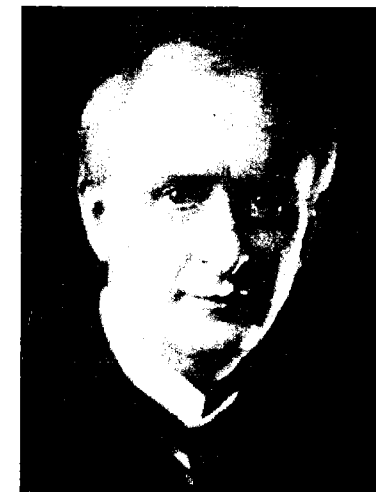
しかし職業奉仕が、自己犠牲の奉仕、滅私奉公、没我の奉仕を至上のものとする考えに律せられるときには、西欧文明が「個」の理性的な追求を土台に発展しているのに比べ、日本人的「個」のありかたは「人と人との間にある」といった捉え方をしていることに違和感を憶えざるを得ません。I serve の I や、Service Above Self の解釈が混乱する原因でしょうか。

4 シェルドンの職業奉仕

1910 年、1911 年および 1913 年、国際ロータリークラブ連合会全国大会で発表されたアーサー F. シェルドン (Arthur Frederick Sheldon) の講演原稿などが、2000～02 年に田中毅 PG によって発見され、最古にして最新の職業奉仕論となりました。彼の職業奉仕論は、現代にも通用する商売繁盛・経済発展の基本理念と同じであると考えられます。

当時の経済社会の思想的背景は、「我」の利己心や利潤の追求を肯定し、それを律する倫理は「個人」の良心に頼り、善行や相互の愛情は経済の発展に不要と考えられていたようですが、1902 年シェルドンは、自らの企業理念を He Profits Most Who Serves Best に凝縮して表現し、黄金律の実践である「奉仕」という愛の世界を置いています。これが全地球上万人の心に共感を呼び起こし、ロータリーの発展に寄与したのではなかったのでしょうか。また、今日失われている、当時の宗教的な資本主義精神に替わり得る強い支柱としての意義が現代にも生きています。

その時代、これらの思想の礎となるプロテスタンティズムは、英米という狭い局地で流布したにすぎず、カトリックの支配する国や他の宗教の国では通用しなかったことでしょう。また、「信ずるもの」は人それぞれです。彼が「神」という言葉を使ったのは晩年だけだったと教えられていますが、ロータリーの宗教を超える展開のために、あえて「神」という言葉を避けた、と考えるのは無理でしょうか。しかし彼のこのモットーに至る考えを、



アーサー F. シェルドン

マックス・ウェーバーの 1904～05 年の著作『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』と結びつける解説には、両者の発表年代から見ても疑問を感じています。

[II] 混乱を招いたさらなる原因

1 職業奉仕に関する声明

混乱の流れに棹さしているのは、1987～88 年度 RI の発表した新方針「職業奉仕に関する声明」です。そこには、職業奉仕の理念のなかの条項に、「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること」と定義したうえで、「職業奉仕はクラブとクラブ会員両方の責務である」「クラブは職業奉仕を実践し、模範となる実例を示せ。会員が職業上の手腕を発揮できるプロジェクトを開発せよ……」と述べています。

ここが、職業奉仕という I serve の奉仕を、職業のない (企業ではない) クラブが We serve で行えとは！ と皮相的で短絡的な論議的となったところでした。

ロータリー哲学の基盤にあり、不易なるものである「職業奉仕」は、流行の中であってこそ輝きます。不易なる「理念」は、時代に即した新しい手段、すなわち、2014 年度においては CLP (クラブリーダーシッププラン) の方法論によって生かしていかなければならないと思います。日本の伝統的なロータリー文化を堅持し、世界のロータリー文化をリードするためにも必要であり、そして具体的な実行は、クラブ細則の改正が必須です。

2 職業奉仕理念と職業奉仕活動

CLP の考え方によって、整合性の理論付けを試みたいと思います。この時、「理念・哲学」とその実践方法である「活動」を分けて考えないと混乱します。

五大奉仕は「ロータリーの目的」を実践するにあつ

四つのテスト (The 4-way Test)

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

ての理念すなわち「心」であり、考え方には五通りの道筋があって、それを容れる「姿」(相)である委員会が構成され、その活動すなわち「行動」があります。CLPによればその活動を「奉仕プロジェクト」と呼び、委員会名は五大奉仕の名称にかかわらず、活動の内容を表す名称を付けることとなります。

2007年版『手続要覧』までは、およそ次のような活動が提唱されていました。今なお、多くのクラブが実践しているところです。

職業分類談話・会員事業所見学・職業奉仕討論。職業奉仕活動表彰。青少年就職相談・職業指導。ロータリーボランティア。趣味職業別親睦活動。空席職業分類充填増強。

職業奉仕月間中推奨クラブ活動としては：

地区レベルでのロータリーボランティアの表彰。親睦活動への参加推進。職業奉仕活動や事業(プロジェクト)の提唱。職業分類空席への会員増強。

クラブの職業奉仕委員会は、今まで説かれてきた職業奉仕論との整合性が理解できないまま、「形だけ」を猿まねして、職業奉仕月間には、永年勤続従業員表彰・職場訪問例会開催・無料相談室などを主宰。職業奉仕卓話を地区委員会などに依頼。

これらで事足りるとし、その「心」を失ってミイラのように形骸化しているのが実情ではないでしょうか。いろいろなクラブでの事例から、これに魂をよみがえらす方法を考えてみたいと思います。

3 CLPに整合性を求めて

従業員表彰は；「四つのテスト委員会」の主宰とし、永年勤続に加え四つのテストの心に沿った勤務成果によって会員の推薦を求め、表彰をする例会では、会長あいさつや卓話などで四つのテストについて語るような内容とすれば、会員に四つのテストの理解を深めこの精神を社会に普及させる、立派な職業奉仕プロジェクトにな

るでしょう。

職場例会・会員事業所見学会は；異業種交流として生かすことができます。信頼できていつも会うことのできる仲間同士の集まりであるロータリーほど、良い異業種交流の場はないでしょう。職員には毎週例会に行く意義として、事業繁栄のためにあるロータリーの一面を見せるまたとない機会です。

青少年就職相談・職業指導は；現今、青少年育成プログラムとして盛んに行われるようになりました。ロータリアンが学校へ出向いて、その職業を語る出前教室や、生徒の職場体験入社受け入れが相当します。この事業の担当は、「青少年育成委員会」とでも命名されることでしょう。これらの奉仕活動は、自分自身の職業にとっても、未来の仲間予備軍を獲得するためにも、広報の意味でも有益です。

ロータリーボランティアについては；例えば、多数の外国人労働者が移住している地域で、医療や法的問題に困っているとき、会員の医師や弁護士によって、救済プロジェクトの企画が立案されたとします。この事業で、会員の医師や弁護士が奉仕活動をするためには、通訳や看護師なども必要です。会員として在籍していなければロータリーボランティアとして募らなければなりません。この奉仕プロジェクトを主宰する委員会名は、「外国人労働者支援委員会」とでもなるのでしょうか。

ロータリー親睦活動は；友情と親睦を深めるために職業的またはリクリエーション活動を遂行するための会計士/公認会計士、内科医、金融/銀行業、ワイン、囲碁などのグループとして生かされています。

職業分類談話は；自分に与えられた職業分類を中心に、生い立ちや職業での成功談を語り、わが職業の他の会員への利用を促すことは異業種交流の出発点であり、奉仕活動で自分はどんなことに役立つかを知ってもらうためにも大切です。新会員に、職業についての卓話の機会を早い時期に割り振るのは、プログラム委員会の仕事でしょう。

職業奉仕討論は；クラブフォーラムで、どんな職業奉仕プロジェクトにニーズがあるか広く会員の意見を聞くことも必要でしょう。

空席職業分類充填増強については；職業分類委員会から、空席の情報を増強委員会に提供する重要な共同活動があります。職業分類(理念)はロータリーを特徴付ける大切な考え方ですが、その結果としてできた職業分類表を会員に配布しているクラブはたくさんあるのでしょうか？ 新入会審査には、職業分類委員会(係)の了承が必要です。推薦者の責務とともに、最近等閑になってい

るようです。

職業分類についてロータリーの創始者、ポール・ハリスの言葉があります。「もしロータリーが完璧の域に達することができるとしたら、私たちはこの世にあるすべての事業および専門職務を代表する人々を集めたクラブをつくることになる」

例示したようにして、実際に今まで行ってきた奉仕活動を、ちょっと視点を変えれば理論的整合性が得られ、「不易なる職業奉仕理念」を「最新の手法CLP」によって生かすことができるのではないのでしょうか。

[III] 職業奉仕の定義

1 ロータリーの目的

ロータリアンは何を信じ、何をなすべきか。これを示すのは、「ロータリーの目的(The Object of Rotary)」です。ロータリーは、この実践のためにある組織です。

主文：「ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある」

原文は…as a basis of worthy enterprise…であり、enterpriseは「意義ある事業」と訳されていますが、大仕事・企業経営・企業心などの意味を含んでいます。すなわち「企業理念の礎は奉仕の理念」と読み解くことができます。

上野孝P Gの言われるように、意義ある事業の「の」が、「を」であったらどうでしょうか。これが「の」であることに大きな意義があり、「を」であったなら、「企業収益の社会還元を旨とすべし」と読み解くことができるように、ロータリーの根本的な哲学とは全く違う意味になってしまうと説かれています。

ロータリーの目的の主文が示すように、「個々の職業において、理想とする奉仕の理念を実践すること」が職業奉仕の定義でもあると思います。

2 奉仕の理念(理想) Ideal of Service

英語のServiceは日本語の「奉仕」の意味と、歴史的に形成された概念が違いますが、R Iの『Official Directory』に記載されていた「Ideal of Serviceの解釈がロータリーにおける奉仕(Service)の定義」になるのではないのでしょうか。

Rotary clubs everywhere have one basic ideal — the “Ideal of Service”, which is thoughtfulness of and helpfulness to others.

公式訳がないので、私訳を試みます。

「理想的な奉仕のあり方は、対する人の求めるところをよく察し理解し、そして思いやりの手を差し伸べ

ロータリーの行動規範 (Rotary Code of Conduct)

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

- 1) 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
- 2) 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
- 3) 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
- 4) ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。
- 5) 事業や職業における特典を、ほかのロータリアンに求めない。

ること」

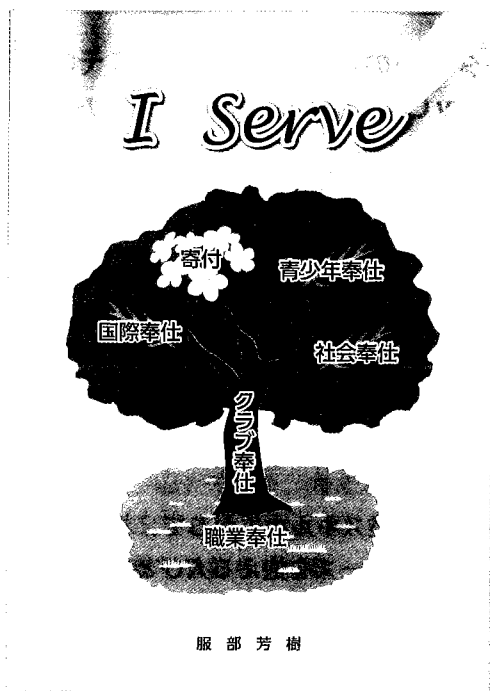
この奉仕のあり方は、職業奉仕のあり方そのものでもありません。それはまず、「相手の心を視ることから、耳を傾けて聴くことから」出発します。

客は何を望んでいるのだろうか？ ディズニーランドの従業員教育 Hospitality mindの第一歩にも通じます。いま盛んに言われている「おもてなし」、相手の心を素早く察し、わが身ならばいかにしてほしいか？ と考えて行動する、職業奉仕の理念がこめられているように思います。この「理念」の実践は、企業の長にあっては、法律 Complianceを、従業員にとっては、作業手順 Manualを、超えたところにあります。

3 二つのモットー

1910、11、13年には、シェルドンによって、職業奉仕の理念が説かれ、その神髄は決議23-34にも記載され、今日なお、「不易なるロータリーの原点」として語り継がれています。

決議23-34は、ロータリーの目的の実践指針ですが、なかんずく、「ロータリーは一つの人生哲学である……」と述べ、二つのモットーを示して職業奉仕を説いたその第1項は、ロータリーの心を語る哲学であると、



2010年度規定審議会においても、世界中のロータリアンが絶対多数の賛同を寄せて認めています。

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」 He Profits Most Who Serves Best は、1902年にシェルドンによって、販売学の教科書に書かれたセールス成功の論理でした（現在は He が One に変更されています）。

したがって「報い」Profitの原意は、実利実益である金銭的な「報酬」の意味と解釈されます。しかし、シェルドンの、1921年「奉仕の哲学」のなかには、精神的な「報いを無視してはいなかった」と解される一節があります。そしてこの実生活上の倫理に合った原則を基礎として、超我の奉仕 Service above Self が成立しています。

「利他の心をもってすれば、利^{おの}自^{かえ}ずから己に還る。奉仕は我執を超えて無心であれ」と読み解くことができるのではないのでしょうか。

シェルドンの職業奉仕理論発想の原点は、商売繁盛・経済発展の基本理念と同じで、現在も身近な日々の生業の中にあって至極納得できる考え方であると思います。そして今この理論は小船井修一PGの説かれるように、顧客満足で終わらず、それ以上に予想外の嬉しい感動をもたらす Customer's Delight に発展しています。

ロータリーのあらゆる奉仕活動は、ロータリアンの才能と手腕、職業の繁栄によって得られた社会的地位や経済力によって花開いています。言い換えれば、あらゆる奉仕活動も寄付も、職業繁栄を願う職業奉仕の「根」の上に茂る枝葉や開く花です。

職業の繁栄なくしてロータリアンの奉仕なし。

4 四つのテスト

この仕事は幸せをもたらすだろうか？ 客も・仕入れ先も・下請けも・従業員にも・家族にも周りのみんなに、笑顔の輪が広がるだろうか。四つのテストは、職業奉仕の座右の銘です。職業の倫理だけでなく、「物事の判断」の基準としてもその尺度となり、また、人間関係の和を良好に保つための指針であるとも、四辻でどちらへ行けばよいのか迷った時、進路を定めるための指針であるとも言われています。

四つのテストは、ばらばらにして、一つひとつ決めつけるように追求したり分析したりせず「四つひとつくみみにふんわりと考えればよい」と伝えられています。

【IV】 I serve の究極にあるもの

決議 23 - 34 に従って考えれば、個々の力を結集して活動する、クラブ・社会・国際・青少年奉仕はすべて自己研鑽^{けんさん}のためにあり、I serve の精神を磨くためにあります。

「力^{つとむる}ところは向上奉仕」と歌っているように、あらゆる奉仕活動は人間性向上の修練のためにあり、修行の結果を世に問うことが職業奉仕ではないのでしょうか。

「奉仕の理想に集いし友よ、御国に捧げん我らの業」理想とする奉仕の理念の実践を志して、心ひとつに集まる友よ、我らの生業を日本の社会に役立てよう。「ロータリーの目的」を実践するための組織であるロータリーの礎石は職業奉仕であり、それは究極の I Serve ではないのでしょうか。

結び

言うまでもなく、日々のロータリーは学問ではありません。しかし、「私はロータリアンである」と胸を張って言える資格は？ と問われたら何と答えますか。職業奉仕の理念やその理論的根拠について説明できる知識が要求されることでしょう。

さて今後の問題として、ここに述べた職業奉仕の概念は、いわば「人と人との対面において、手で数えることのできる金銭」とでもいった世界のなかで通用するものであり、現代の経済社会、金融資本・株式市場・法人などの「人でない者」が介在する世界での対処はどう考えていくのか？ 日本のロータリー文化が誇る職業奉仕の哲学が未来永劫^{えいじ}耀くように、諸賢の叡智^{えいち}を期待します。

筆者著書『I Serve』2014年より抜粋